

## シナプスリモデリングのメカニズムと生理的意義 (S60)

本シンポジウムは、日本生理学会の第90回大会最終日、2013年3月29日の15:20からF会場で開催いたしました。オーガナイザーは山口大学医学部第二生理の美津島大と理化学研究所脳科学総合センターの林 康紀が担当し、大阪大学生命機能研究科の山本 亘彦先生、横浜市立大学医学部生命医科学の竹居 光太郎先生、横浜市立大学医学部生理学の実木 亨先生をお招きし、以上5名の講演と質疑応答を行いました。3日目午後の最後のシンポジウムにも関わらず、多くの方々にご参加いただき、活発な意見交換がなされました。この場をお借りして感謝申し上げます。

オーガナイザー：美津島 大（山口大学医学部第二生理）  
林 康紀（理化学研究所脳科学総合センター）

シンポジウム S60 の各シンポジストの発表要旨は WEB 版をご覧ください（筆頭著者名・講演タイトルは以下のとおりです）。

竹居光太郎『内在性 Nogo 受容体拮抗物質 LOTUS による神経回路形成機構』P.22

山本亘彦『神経活動依存的な軸索分岐のリモデリング』P.22

林 康紀『神経活動依存的な海馬樹状突起スパインの構造・機能的可塑性に対する、CaMKII のゲート作用』P.23

美津島大『海馬学習は興奮性と抑制性のシナプス伝達を強化する』P.24

実木 亨『大脳皮質回路の異種感覚間可塑性』P.25